

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立伊丹小学校								
教育目標 よい子 強い子 伊丹の子 一徳・知・体の調和のとれた心豊かなたくましい子の育成								
重点目標	①豊かな人間性を育てる心の教育推進							
	②「わかる楽しい授業」「1人も取りこぼさない学びの保障」を目指す授業改善推進							
	③健やかな体の育成と健全な食生活の推進							
	④教育環境の整備、業務改善と学校安全の充実							
	⑤地域とともにある学校づくりの推進							
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	関係者評価	
学力の向上	(1) 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の具現化に向けて、校務分掌の枠をこえて課題を共有、解決できる場を設定する。 ・教育目標の実現、働きやすい環境づくりに向けて、教職員に向けて働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育評価委員会を企画運営する。委員会では、それぞれの分掌の現状や課題を集約し、立案、施行、評価につなげる。 ②カリキュラムマネジメントを意識して、教科横断的な視点で教育課程を行う。 ③職員会議については、部会・学年打ち合わせ等をうまく活用して、提案や協議事項を精査し、スリム化を図る。 ④教職員マニュアルを活用し、時間対効果を意識しながら業務にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育評価委員会を年度初め、年度末の2回開催する。重点項目や具体的施策の検討をし、学校教育目標の具現化に活かす。 ・教職員アンケート「学校は適切な教育課程を編成している」の項目で、肯定的な意見が100%になる。(昨年度100%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育評価委員会を年間2回開催した。年度初めには学校教育目標、目指す児童像から具体的な手立てを検討し、年度末には今年度の反省、来年度への改善点を洗い出した。 ・教職員アンケート「学校は適切な教育課程を編成している」の項目で肯定的な意見が100パーセントであった。 ・カリキュラムマネジメントに関しては、まだまだ学校全体としての意識が低いので、引き続き周知徹底、検討していく必要がある。 ・職員会議については時間を意識した提案が見られるようになってきているが、連絡会の時間短縮には課題がある。 ・定時退勤については、学年単位、学校単位で日にちを設定するなど取り組んでいるが、実現できていないのが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントについては、年度末に実践例を集約し、年度初めに各学年に具体例を提示する。 ・連絡会の廃止、または時間短縮を検討していく。そのために、ホワイトボードのスペース・場所を確保する。 ・職員会議の提案資料については、様々な取り組みを行ってきたが現状定着していない。また、費用削減のためにも全職員にパソコンアカウントを用意し、各自で確認する方式をとってはどうか。 ・様々な取り組みが変化してきている中で、新しく赴任された方をはじめ、伊丹小学校のやり方が分からずに苦労されている。業務改善マニュアルの見直しをすすめていく。 	<p>ペーパーレス化やオンライン会議等が進む中ではあるが、全てをデジタル化するのではなく、対面の形も必要ではないか。</p> <p>全教職員が教育課題等について共通理解することが重要である。</p>
	(2) 学習指導(研究推進)	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に子どもたちが学習に参加することを「見通しをもって学習に取り組む」「友だちとの関わりから新たな見方や考えを生み出す」と仮定し、わかる楽しい授業を研究する。 ・読み書き、計算などの基礎的な学力を児童に定着させる教育活動を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童が見通しをもって授業に参加するために、「誰に(対象)」「何のために(意義)」「どうやって(方法)」を意識した単元のゴールを設定した計画を立てることを推進する。 ②授業での思考活動を5つ(比較・順序・因果関係・類推・予測)に絞り、グループトーク,全体共有で新たな見方や考えに気付くことができるように促す。 ③前年度のチェックテスト(語彙、計算)から挙げた課題を中心に、朝学習で習熟を図る。 ④年に1回国語、算数のチェックテストを行い、成果と課題を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートで、「子どもが主体的に学ぶ授業を実践している。」の質問に肯定的な回答が90%をこえる。 ・児童アンケートで、「授業でのゴールが分かり、計画的に学習している」の質問に肯定的な回答が90%を超える。 ・児童アンケートで、「授業で友だちの考えを聞くことは勉強になる」の質問に肯定的な回答が90%を超える。 ・保護者アンケートで、「子どもは学校での学びが身に付いている」の質問で肯定的な回答が90%を超える。 ・国語、算数のチェックテストの結果での正答率が80%を超える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートで、「子どもが主体的に学ぶ授業を実践している。」の質問に肯定的な回答が98%に達した。児童の主体的な姿を共有して、単元の見通しをもった学びと友だちと共に考える姿に焦点をあて、研究をすすめていった成果である。 ・児童アンケートで、「授業でのゴールが分かり、計画的に学習している」の質問に肯定的な回答が90%を超え、「授業で友だちの考えを聞くことは勉強になる」の質問に肯定的な回答が95%を超えた。単元のゴールを明確にし、研究を進めてきた成果であるが、一方でまだ、友だちと考えを深めたり、広げたりする力には課題がみられる。 ・保護者アンケートで、「子どもは学校での学びが身に付いている」の質問で肯定的な回答が90%を超えた。 ・国語、算数のチェックテストの結果での正答率が80%を超えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の児童の課題である、対話的、コミュニケーション、聴き合う・友だちを考えを深めたり広げたりするところには引き続き、研究を通して鍛えていく必要がある。 ・学校全体で研究に取り組んでいくことができるように、ベースとなる授業の流れを提示したり、校内研究の際に授業をみるポイントを設定したりする。 ・国語、算数のチェックテストの分析から、国語では、語彙力を高めること、主語・述語・修飾語の識別、算数では、基礎的な計算力、位を意識したノートづくりなどに取り組んでいく。 	<p>授業でのゴールが分かり、計画的に学習していると、肯定的に感じている児童が90%を超えているということは、頑張っていると評価してよい。</p>

	(3) 生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の未然防止、早期発見を図り、児童が楽しく過ごせる環境をつくる。 ・不登校の早期発見、対応に努め、児童が安心して通えるように支援する。 ・いじめの未然防止、早期発見を図り、児童が楽しく過ごせる環境をつくる。 ・生活習慣を見直し、自分から進んであいさつのできる児童を育てる。 	<p>①学年、生活指導部会、管理職間の円滑な連絡体制の確立、校内職員の共通理解を徹底し、チームで課題解決にあたる。</p> <p>②規則正しい生活規範を確立させる。</p> <p>③児童の学校での様子を観察し、異変を感じたときには家庭訪問や電話連絡で家庭と連携を図る。</p> <p>④年間3回のいじめアンケートやセルフチェックシートを活用し、いじめの早期発見、対応に努める。</p> <p>⑤各月の生活目標にあいさつの項目を必ず設定し、児童に意識させる。</p> <p>⑥児童アンケートに「自分から進んであいさつができています」の項目を追加する。</p> <p>⑦朝、下足室前に教師が立ち、児童のあいさつ状況を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートでの、「問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っているか」の質問に肯定的な回答が90%をこえる。 ・児童アンケートにおいて、「自分から進んであいさつができています」の質問に肯定的な回答が90%をこえる。 ・児童アンケートにおいて、「廊下を正しく歩く、名札を付ける等、生活ルールを守っているか」の質問に肯定的な回答が90%をこえる。 ・保護者のアンケートで、「先生は子どもの様子をよく見て、適切な指導を行っているか」、「子どもは生活のルールやマナーを守っているか」の質問に肯定的な回答が90%をこえる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートの結果、肯定的な回答が96%だった。 ・児童アンケートの「自分から進んであいさつができています」の結果は89%だった。「廊下を正しく歩く、名札を付ける等、生活ルールを守っているか」の結果は88%だった。 ・昨年度よりも児童があいさつに対して意識はできているように感じる。しかし、まだまだ自分から進んでではなく、あいさつをされたらかえすような受け身の姿勢の児童が多いので進んでできる児童を増やしていきたいと考えている。 ・本校の大きな課題が、廊下を歩くことである。休み時間、下校時間が特に走っている児童が多く、来年度はこちらに重点を置いて学校全体で取り組んでいきたい。 ・保護者アンケートの「先生は子どもの様子をよく見て適切な指導を行っているか」は90%、「子どもは生活のルールやマナーを守っている」は95%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導担当の力だけでは、廊下を歩くことを徹底することはできないと考える。生活委員会、代表委員会などの委員会活動や全職員で徹底して注意、呼びかけ、走らせない工夫を施していくことをしたい。 ・あいさつに関しては、高学年を中心に意識が高まってきているので、引き続き高学年を中心にあいさつ運動を進めていきたい。 ・来年度は生活委員会だけあいさつ運動をするのではなく、高学年全員があいさつ運動をするような活動ができたと思う。 	<p>廊下を走らないことを含め、いろいろなルールを守らせるためには、一定の注意は必要である。</p> <p>不登校については、無理やり学校に戻すことがねらいではなく、フリースクールの活動など、国の方針を十分に理解することが必要である。</p> <p>親とのコンタクトはとらなければならない。学校の先生方は頑張っていると思う。</p>
	(4) 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を大切にするとともに、他人の命も大切にし、安全に過ごす態度を養う。 ・安全について意識を高め、環境を整備する。 ・児童の生活実態を把握し、安全な学校生活を送れるようにする。 	<p>①1学期に保護者同伴下校訓練・火災発生時の避難訓練を行う。2学期に防犯訓練の避難訓練を行う。3学期に地震時の避難訓練を行う。</p> <p>②1年生は4月に交通安全教室を実施し、通学路を守り登下校の指導をする。3年生は、6月に自転車教室を実施し、基本的な交通ルールを身につけさせる。</p> <p>③登校指導を6回行う。登校指導で気づいたことは、安全担当から全校児童に指導する。</p> <p>④安全点検を毎月行う。教室を安全に過ごせるよう、チェックをし修理をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3回の避難訓練を実施と保護者同伴下校訓練を行い、各学級での事前指導・事後指導をしっかりと行う。実施後は、反省点・改善点を集約し、今後に活かしていく。 ・毎月の安全点検で、修正する箇所や危険場所を早急に改善できるようにする。 ・登校指導で、交通ルールを守るよう、各クラスで指導をしていく。 	B	<p>今年度から、早い時期に保護者同伴訓練を実施し、災害時等の対策に生かすことができるようにした。年3回の避難訓練も、運動場に避難する訓練ができた。2学期には、防犯訓練で警察の方と協力して実施し、全校児童の前でお話もいただいた。3学期には、避難の仕方もうまくなり、放送を聞いてから動く、運動場にでてきたら走るなどの動きがスムーズになってきた。来年度に生かしていきたい。学校生活では、廊下を走る子がまだまだ多い。学級指導をしているが徹底できていない。</p>	<p>来年度も今年度同様に、早い段階の保護者同伴訓練を行い、保護者との連携をしていく方向で考えている。保護者に確実に引き渡してできるように、前もって名簿に記入するなど準備が必要だと感じた。2月の防犯訓練では、笛の合図を決めて徹底できるようにしていきたい。トランシーバーは、聞こえるクラスと雑音が入る場所があり、実際使用できないことも考えられるので、携帯電話を使う方向で話し合いができるといいと考えている。また、校内研修は夏休みに行い、自分の担当を把握して2学期から動けるようにしていきたい。学校生活では、廊下を走る子がおおいので、生活部と協力して対策を考える必要がある。</p>	<p>家庭で親子の会話が重要である。</p> <p>登下校時に危険を感じる箇所もあるため、通学路の見直しも今後必要ではないか。</p>
	(5) 健康管理 (健康教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な生活を営むための生活習慣を身につけさせ、早寝・早起き・朝ごはん等の基本的な生活習慣の定着をはかる。 ・感染症対策として環境衛生に配慮し、刻一刻と変化する状況に応じた必要な対処方法を選定し、自主的に健康な生活を実施できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほけんだより、児童集会、各種保健委員会を利用して十分な睡眠食事運動など免疫力を高める生活習慣を身につける為の児童への効果的な啓発を実施する。 ・熱中症対策、換気、水分補給の仕方について職員連絡する他、ほけんだよりや視覚的掲示を活用し、感染症対策としての環境衛生の啓発と充実を図る。 ・感染症対策として足形や掲示の配置をしながら、児童が自ら静かに整列できる工夫をする。 ・石けんでの手洗いを徹底し手指消毒は教室の入口付近（見えやすい場所）に配置し、順番に誰でもいつでも使用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートで「子どもは、早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身についている」保護者アンケートで「子どもは、早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身につけている」児童アンケートで「早寝、早起き、朝ごはんを心がけて生活している」の質問に肯定的な回答が90%をこえる。 ・教職員アンケートで「目的意識を持ち、静かに集合し、話を聞く子どもに育っているか」の質問に肯定的な回答が80%をこえる。 	B	<p>「子どもは早寝、早起き、朝ご飯の習慣が身についている」の肯定的回答は、教職員アンケートで71%、保護者アンケート82%、児童アンケート74%であった。アンケート結果では高学年になるほど就寝時間が遅くなる傾向があった。保健室の来室者の個別調査でも体調不良の児童に関して半数以上が就寝時間が10時以降その上12時以降も多く見られたため、生活リズムの大切さが学校生活を快適に過ごすことに直結していることを再確認した。低学年でもゲームをして夜遅くなることが多い家庭もあり保護者の協力も必要不可欠であるため呼びかけていく。「早寝早起き」にスポットを当てた指導や啓発を行い、基本的な生活習慣の定着につなげていく。</p> <p>・教職員アンケートで「目的意識を持ち、静かに集合し、話を聞く子どもに育っているか」の質問に肯定的な回答が前期62%→後期82%と大幅な改善が見られた。</p>	<p>早寝早起き朝ごはんを含む生活習慣についての保健・栄養指導。</p> <p>朝食内容を聞き取り、具体的な栄養の取り方などの個別相談。</p> <p>ほけんだよりでの啓発。（低学年から）</p> <p>健康教育の授業参観や学校保健委員会の実施。親子で学習できる機会を設ける。</p> <p>家庭でのスマホ、ゲーム等の使い方の振り返りを含め、生活の指導をしていく。</p> <p>食育や睡眠についての教材「食育の時間」「生活習慣と体のリズム」等を活用して、食育や睡眠について生活習慣の改善につなげる。</p>	<p>基本的には、学校ではなく家庭で指導・教育すべきことが多いと思う。</p> <p>時間の制限だけではなく、なぜダメなのかを子どもに理解させることが重要である。</p>

豊かな心
健やかな体

<p>(6) 保健体育教育</p>	<p>・運動に親しみ、楽しく取り組む態度を育てる。 ・学校行事や休み時間、教育活動全体を通じて、体力・運動能力の向上を図る。 ・心や体の健康に関心を持ち、健全な生活を営む態度を育てる。 ＜低学年＞だれとでも仲よくし、楽しく運動できる子ども ＜中学年＞課題をもち、工夫して運動を楽しむことができる子ども 体の発育・発達について理解できる子ども ＜高学年＞課題をもち、活動を計画的に行い、運動の楽しさや喜びを味わうことができる子ども 心の健康及び病気の予防について理解できる子ども</p>	<p>①固定時間に応じた単元指導計画を立て、授業の充実をはかる。 (1年 102時間 週3時間、2～4年 105時間 週3時間、5,6年 90時間 週2,6時間) ②研修・研究の機会があれば紹介すると共に、できるだけ参加する。 ③学年で作成したワークシート類をデータで保存し、活用する。 ④運動会に向けて、1学期から取り組んでいく。 ⑤備品の充実をはかる。 ⑥スポーツテストを実施する際に、保健体育課の職員を招き、コツなどを教えてもらう。</p>	<p>「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「運動やスポーツをすることが好き」の肯定的回答が90%をこえる。 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「体育の授業は楽しい」の肯定的回答が90%をこえる。 児童アンケートにて、「体を動かすことが楽しい」の肯定的回答が90%をこえる。 保護者アンケートにて、「子どもは、運動に親んでいる」の肯定的回答が90%をこえる。</p>	<p>B</p>	<p>学校評価の児童アンケートにおいて、「体を動かすことが楽しい」の肯定的回答は約90%となった。 一方で保護者アンケートにおいて「子供は、運動に親んでいる」の肯定的回答は約80%にとどまった。 アンケートの結果から、子どもは運動に親しみ楽しんでいるが、保護者には伝わっていないことがわかる。</p>	<p>体育の授業では、主運動に入る前にサーキットトレーニングなどを取り入れ、運動が苦手な児童も楽しんで体を動かせるように工夫する。 家庭でも運動に親んでいる様子が伝わるように、家庭でできる運動などをHPなどを使って発信していく。</p>	<p>運動が楽しいと感じることが できる授業にしてほしい。 マスクをとれない子もいるため、個に講じた配慮が必要である。</p>
<p>(7) 人権同和教育</p>	<p>・あらゆる差別解消をめざし、教育活動全体を通じて、人権に関わる様々な課題を解決しようとする子どもを育てる。</p>	<p>①学級づくりについての交流会や児童について共通理解をはかる研修会を行う。 ②職員の人権問題への理解を深めるため、研修会を行う。 ③児童や保護者に対し、人権問題への意識向上の機会になるよう、人権参観で様々な人権問題も取り上げ、授業を行う。 ④男女共生教育推進のため、男女混合名簿、背の順、「さん」づけなどの取り組みを根付かせていく。</p>	<p>・児童アンケートで「友だちに思いやりをもって接している」で肯定的な意見が100%になる。 ・保護者アンケートで「子どもは、思いやりをもってまわりの人に接している」で肯定的な意見を95%をこえる。 ・教師アンケートで「人権や命の大切さについて指導している」で肯定的な意見が100%になる。</p>	<p>B</p>	<p>(成果) ・教師アンケートで「人権や命の大切さについて指導している」で肯定的な意見が100%であった。 (課題) ・児童アンケートで「友だちに思いやりをもって接している」で肯定的な意見が94%であった。 ・保護者アンケートで「子どもは、思いやりをもってまわりの人に接している」で肯定的な意見を94%であった。 ・教師の自由記述欄には、「低学年で乱暴な言葉遣いをする子が気になる。」、「指導するタイミングが大切だと感じる。」と記載がある。</p>	<p>・全職員が全児童に関わる気持ちで、おかしいと思うことは見逃さずに関わるようにする。</p>	<p>とても難しい問題である。 伊丹の歴史を、先生方にも十分に理解した上で指導してほしい。</p>
<p>(8) 特別支援教育</p>	<p>・児童一人一人の実態を把握し、適切な教育支援を行うことにより、児童の可能性を引き出し、確かな学力の向上と豊かな心の育成を図り、生きる力（自立）へとつなげる。</p>	<p>①児童の実態を掴むため、支援の必要な児童について情報共有する場を設定する。 ②個に応じた支援計画等を作成し、適切な対応を行う。</p>	<p>・児童についての情報交換の場を毎月(部会)設定する。 ・年2回以上各クラスの実態や学級経営、支援の必要な児童の理解について交流する。(生活人権支援研修会、ひまわりきこえ研修会) ・必要に応じてサポートファイルを作成し、学校と家庭が連携しながら、継続した支援を行う。(毎学期) ・支援員、担任と連携し、児童の実態に応じて支援体制を見直す。(毎月) ・必要に応じて、教育相談や巡回相談につなげる。 ・教職員アンケートで、「支援を必要としている児童に適切な支援を行うことができている」の質問に肯定的な回答が90%をこえる。</p>	<p>B</p>	<p>(成果) ・教職員アンケート「支援を必要としている児童に適切な支援を行うことができている」の質問では、肯定的な回答が、1学期末よりも上昇したものの、84%となっている。 (課題) ・支援を必要としている児童の数に対して、支援の手が十分ではない。人員配置を要望するとともに、効果的な支援方法の検討が必要。</p>	<p>・より効果的に支援できるよう、支援体制を検討する。 ・学年間や校内全体で学習面・生活面等で児童が学びやすく、過ごしやすい環境づくりに向けて、基礎的環境整備(UD化)に取り組む。</p>	<p>幼稚園では5人に1人配置されているが、小学校にももっと配置してもらえないか。 保護者が気軽に相談したり、支援員や担任と連携したりする場を積極的に持つべきである。</p>

	(9) 特別活動 (児童会)	・集団の一員であることを理解し、自主的に他者と協働してよりよい生活を築こうとする態度を養う。	①児童会活動を通して、学校および児童が活性化する取り組みを考え、クラブ活動や委員会活動を通して異学年交流を深める。 ②学級活動を中心に、よりよいクラスを作り上げていくための話し合い活動を行う。 ③代表委員会を通して、自分たちの理想の学校を作り上げていくために、伊丹っ子目標を設定する。また、伊丹っ子目標を達成するための声かけを行い、学期に1回振り返りの場を設ける。 ④集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の活動の育成と向上に取り組む活動を行う。	・委員会活動、クラブ活動を計画的に行うことができたか。(委員会：年6回 クラブ：年4回) ・議題を設定し、話し合い活動を積極的に行うことができたか。(月に1回) ・伊丹っ子目標が達成できたかの反省を行うことができたか(学期に1回)※代表委員会が反省する ・児童アンケート「委員会やクラスの係の仕事に積極的に取り組んでいる」の項目において、肯定的な意見が、前期85%、後期90%をこえる。	B	【成果】 ・委員会活動、クラブ活動を計画的に行うことができたか。(委員会：年6回 クラブ：年4回)→できたが、クラブの開催については要検討 ・議題を設定し、話し合い活動を積極的に行うことができたか。(月に1回)→簡易的なものも含んだら、全クラスできていた ・伊丹っ子目標が達成できたかの反省を行うことができたか(学期に1回)※代表委員会が反省する→2学期末が忙しくできなかったため、3学期に実施する ・児童アンケート「委員会やクラスの係の仕事に積極的に取り組んでいる」の項目において、肯定的な意見が、前期85%、後期90%をこえる。→前期94%、後期93% 【課題】 ・児童アンケートについて 後期の数値の方が下がっている。委員会の回数が少ないのが仕事の減少にもつながっているのではないか	教職員アンケートより 委員会を6回、クラブを4回する意味があるのか。どちらも不十分に感じる。伊丹小学校の児童の実態から考えて、色々な経験をさせてもらっている家庭が多いので、委員会だけに絞ってはどうか。 以上のことから、クラブの実施の有無について検討する余地がある。	回数が少なすぎるので、委員会かクラブどちらかに絞って、クラブは学級会等の特別活動の時間を使って行い、回数を増やす方がよいのではないか。
	(10) 情報管理	・積極的な情報収集と情報発信に努める	①災害や感染症による休校等の情報を発信する。 ②日頃の様子について、ホームページを通して情報発信する。	・グーグルクラスルームにおいて、すみやかに休校や学級閉鎖等の学校情報を発信する。 ・ホームページの更新頻度については、各学年月2回以上を維持する。	B	・Googleクラスルームを活用することで学級閉鎖の情報を迅速に保護者へ伝えることができた。 ・HPの更新が学年によって差があり、月2回以上の目標を達成しきれていない。	・学級通信を出しているクラスも多く、ホームページの更新内容と重複してしまう。HPの更新が月2回できていないという意見が教職員アンケートで上がっている。 ・保護者アンケートでは①あてはまる→68%②ややあてはまる→20%であるため、学校からの情報発信をより求めている保護者も多くいる。 中には、HPを見ていない保護者もおられるため、HPの周知を図ったり、学年を超えてHPの更新ができるよう働きかけていってはどうかと考える。	重要なものは紙でくると思って、見ていない保護者もいるのではないか。 全てを電子化しなければ漏れが生じる。 学級だよりの発行数に差が大きい。学校HPは毎日更新してくれているが、もっと宣伝すべき。
開かれ 信頼される 学校園	(11) 保護者地域との連携	・学校運営協議会を中心に、保護者、地域との温かい「横の連携」と、幼小中の「縦の連携」を強化し、教育環境の拡充を図る。	①学校だよりやHP等を活用し、積極的な情報発信に努める。 ②地域行事等の案内や情報を教職員に知らせる。 ③学校からの手紙にQRコードを添付し、HPの活用を推進する。	・毎月学校通信・学年通信を発行する。 ・保護者アンケート「学校は、各種おたよりやホームページなどを通して情報を発信している」の項目で、肯定的な意見が100%になる。(昨年度97%)	B	・学校通信、学年通信については毎月発行することができた。 ・ホームページに関しては毎月各学年2回を目標に取り組んできたが、学年行事がない時期に更新が滞ることがあった。 ・保護者アンケート「学校は、各種おたよりやホームページなどを通して情報を発信している」の項目で、98%であった。	・ホームページに関しては、行事や内容に固執せず、普段の学校での様子を配信していく。学級通信を出している教員からしたらホームページを更新する意義があるのかという意見もあったが、保護者だけでなく地域に発信していく意識を持つ。	登下校時の子どもマナーの悪さが気になる。注意してくれた人への口のきき方が悪いときいた。PTAの旗当番がなくなったことも影響しているのではないか。保護者の地域の一員としてもっと協力すべきではないか。
	(12) 施設設備	・児童が安全に学校生活を送ることができるよう安全を確認し、必要であれば修繕、改修する。 ・今ある施設設備をきれいに使おうとする態度を育てる。	①定期的に安全点検を行い、迅速な対応をするとともに安全な施設設備の使い方を適宜指導する。 ②全職員、ボランティアの保護者で清掃時間の児童の取り組みを見守り、指導する。	・毎月安全点検を行う。 ・保護者アンケート「学校は、学習の場として子どもが活用しやすい環境が整っている」の項目で肯定的な意見が95%をこえる。(昨年度93%)	B	・毎月、職員が担当場所を点検し、安全担当が危険な箇所、修繕が必要な箇所などを集約し、技能員と連携しながら対応することができた。 ・保護者アンケート「学校は、学習の場として子どもが活用しやすい環境が整っている」の項目で肯定的な意見が90%であった。	・危険な箇所の対応については引き続き行っていく必要がある。また、自由記述の意見を見ていると校舎、特にトイレの汚れについての記述が多く見られた。児童への清掃指導の仕方について再考するとともに保護者・PTAにも協力を仰ぐ必要がある。	技能員さんがとてもきれいにしてくれている。

学校運営協議会委員評価

- 1 特別支援教育支援員を増員するなど、特別支援教育の理解を深めるとともに、家庭に対する発信を積極的に進めて欲しい。
- 2 通学路の見直しを図るなど、登下校時をはじめとする子どもたちの安全確保に関する取組を進めて欲しい。
- 3 学校生活だけでなく、家庭においても、子どもたちを褒める機会を増やし、自尊感情の醸成に努めて欲しい。
- 4 学校便りやホームページ等で学校の様子が発信され学校の取り組みがよくわかる。今後は、学年で役割分担を進めるなど、学年行事等の様子もリアルタイムで情報発信に努めて欲しい。

次年度にむけた重点的な改善点

- 1 特別支援教育に関する研修を行う等、特別支援に関する理解を深めることで、個に応じたきめ細やかな対応に努める。
- 2 不登校傾向の児童に対して、児童に寄り添った共感的理解に基づく生徒指導を行うとともに、組織的な協力体制及び関係機関との連携を進め不登校児童を減らす。
- 3 導入されたタブレット等を活用するために、ICT機器の研修を充実させ「わかる楽しい授業」の創造と主体的で深い学びを更に充実させる。
- 4 ホームページ、学校便り・学級通信等を充実させることで、学校の様子を積極的に発信する。
- 5 保護者、地域との協働により見守り体制の強化を図り、子どもたちの安全・安心な環境の整備に努める。
- 6 学校、家庭、地域の連携をさらに深めることができるように、学校運営協議会において十分に協議し、地域とともにある学校づくりを推進する。